



第79回卒業証書授与式式辞 3月12日（木）～一部抜粋～

卒業生の皆さん、おめでとうございます。卒業証書を手にして、新たな道への希望を胸にもち、両手に余る三年間の思い出を呼び起こしているのではないのでしょうか。みなさんの三年間は、全校生徒数が減少を辿る中で、伝統を受け継ぐとともに、新たな歴史を切り開いてきた月日でした。この9名が学び動んだ日々は、まさに「一人一人が役割を果たして」輝いた三年間でした。皆さんの成長の跡を振り返ると、修学旅行、運動部の大会や、保・小・中合同運動会、学習発表会・山田地域文化祭での合唱等、一人一人の真摯な取組がありました。

与謝野晶子の歌に「劫初より作りいとむ殿堂に われも黄金の釘ひとつ打つ」という、自分の才能のすべてを自覚した自信にあふれた歌がありますが、皆さんの努力は、この歌さながらに、営々と営まれる「山田中学校」という殿堂に、自信と若さをみなぎらせつつ、黄金の釘を打ち込んできたものと思います。このように皆さんは、それぞれのご家族に生まれて、この学び舎で勤しむとともに、山田という親しみ深い共同体の中で成長されました。家族に感謝するとともに、日々の安全を心配してくださった方々や、学習や諸活動の環境を整備し支援してくださった方々への大きな恩顧と、自分たちをもり立ててくれた下級生や小学生等、年少の皆さんを慈しむ心を忘れてはなりません。

さて、人間の魂の旅路が羅針盤を失って見える今日の時代を、逞しく生き抜いていかねばならない皆さんへの饒に、私の思いを語ります。

イギリスの代表的なロマン派詩人ウィリアム・ワーズワスが「1802年9月 ロンドンにて」という詩で歌った中に「Plain living and high thinking are no more…（質素な生活も高尚な思索ももはやなく）」と、かつての美德が失われたことを歎いている一句があります。このとき彼が理想として描いていた人間像の中には、古代ギリシアのストア派哲学者エピクテトスの姿があったことでしょう。エピクテトスは一生、「plain living（質素な暮らし）」を送りました。彼によれば、人間を人間たらしめているものの本性は、魂と呼ばれる精神的な働きである。本来他の何者によっても妨げられない自由なものであり、これをいかに美しく、あるいは強く育てるかが各人の責任に委ねられている。一方「財産・名声・地位」等の「外界」の誘惑に惑わされて不安動揺し、魂はついには外界の奴隷となり、自らの自由で主体的な働きを奪われてしまう。たとえ思い通りに財産とか名声とかを手に入れても、魂の抜け殻となった人間は、もはや生きる意味を失った空しい存在にすぎない。エピクテトスは、このような状況に陥った自己を克服して、魂を外界の束縛から解放し、どんなに厳しい運命にも毅然として耐え抜く魂の自由を確立せよ、と説くのです。

現代はまさに、「high living and plain thinking」の時代です。私たちは魂のことは気に掛けなくても、科学技術の力で外界を自由にコントロールし、AIを駆使し検索すれば、深く考えずとも快適で便利な生活を得て、誰もが幸福になれると誇っています。しかし、果たしてそうでしょうか。挫折や失敗がつきものの、ままたらぬ人生の現実には少しも変わらず、思い通りになるのが当たり前という幼兒的な全能感ばかりが肥え太り、却って欲求不満の度が高まっただけにすぎないのではないのでしょうか。予測困難な時代を生きる我々には、「high living」のおごりに屈しない強い魂の育成が求められるのではないのでしょうか。特に人間形成にとって最も重要な青年期には、あえて自らに「plain living and high thinking」の試練を課し、困苦に耐え、自らの頭で考え適切に判断し、栄華の誘惑をはねのける克己心を養うことが大切ではないのでしょうか。この意味で本校の生徒の皆さんが、山田中学校の校訓のもと、学習に部活動に、自己の鍛錬に真摯に取り組んでいる姿を見るとき、このような若者がいる限り、人間の未来は明るい希望が湧くのです。自分の修練を通した責任ある判断と行動で、これからの人生を自分らしく歩んでくれることを切に願います。

卒業生の皆さんの前途に、幸多からんことを願います。そして、一人一人が、山田中学校の卒業生としての誇りと自信をもち、それぞれの道で、自分らしさを発揮し活躍され、それぞれの「まことの花」を咲かせられんことを祈念し、式辞といたします。



卒業証書授与



送別の言葉



お礼の言葉



卒業の歌「道」

第3回 山田小・中学校運営協議会 2月13日(金)

2月13日(金)に、第3回山田小・中学校運営協議会を開催しました。協議会に先立ち、委員の方々に、児童生徒の学習の様子を参観していただきました。その後、本年度の学校運営について学校から報告し、よりよい学校の在り方について協議しました。家庭学習の意義や家庭との連携等について意見を活発に交わし、次年度以降も引き続き、協議することを確認しました。終わりに、令和8度の学校運営方針を承認いただき、閉会しました。



令和7年度 アクションプランの報告

①出席率を93%以上にする

達成度 94.2% (4月から12月までの達成状況)

*「学校へ行くのが楽しい(学校評価アンケート)」と感じている生徒は、90%です。

*欠席した生徒には、担任から連絡を入れ、家庭での過ごし方を聞き、学校の様子を伝え、生徒が安心して登校できるように配慮しました。

*毎月行っている「さわやかアンケート」やQ-U調査の結果に基づいて、生徒一人一人の状況を把握し、小さな変化を見逃さないよう、教職員で共通理解を図り、生徒理解に努めました。

*学級担任による教育相談と、スクールカウンセラーによる全校面談を計画的に実施し、生徒が本音で語れる雰囲気づくりと居場所づくりを全校体制で行いました。

*スクールカウンセラーがゲストティーチャーになり、「SOSの出し方に関する教育」を全学年で行いました。

②年間読書冊数の目標を生徒が自ら立て、全体の80%以上がこれを達成する

達成度 100% (4月から1月までの達成状況)

*朝読書の時間を確保し、読書を楽しむ習慣を身に付ける機会を大切にしました。

*生徒が読み終えた本を集約し、「おすすめの本」として掲示することで、他の生徒が読んでいる図書に関心をもてるようにしました。また、広報委員会が学期ごとに良書を生徒集会で紹介しました。

*山田図書館の司書によるブックトークや本の読み聞かせ、合同国語での「ビブリオバトル交流会」等、読書の意義と楽しさを実感できる場を設けました。

③家庭で学習する時間の目標を生徒が自ら立て、全体の80%以上がこれを達成する

達成度 80.0% (4月から1月までの達成状況)

*「自分で決めた家庭学習の目標時間を目指して努力している(学校評価アンケート)」と回答している生徒は、90%です。

*年度当初に各教科の家庭学習の進め方の一覧表を配付し、担任が学級指導を行いました。

*職業調べや高校説明会、講演会等の進路指導・キャリア教育を通して、生徒自身が進路を考える機会を設け、学習意欲の向上につなげました。

*定期評価前に放課後学習会「山田中学力向上アカデミー」を実施し、多くの生徒が自主的に参加しました。互いに学び合う雰囲気が高まり、家庭学習につなげることができました。

*毎月、生徒は各教科の家庭学習の進め方について自己チェックし、目標時間の達成度や家庭学習の取り組み方について振り返りました。担任は、今後の学習に生かすよう呼びかけ、個に応じた指導・支援に努めました。

4月の主な行事予定

8日(水) 始業式・着任式	20日(月) 市中教研全体研修会
9日(木) 弁当(準備をお願いします) 部活動あり	21日(火) 交通安全教室
10日(金) 給食開始	21日(月) ・23日(木)・30日(木)
13日(月) 身体測定	全国学力・学習状況調査
16日(木) PTA役員会	25日(土) PTA総会・SNS研修会・授業参観
17日(金) 小中合同引き渡し訓練	27日(月) 振替休業日 29日(水) 昭和の日